九州北部地方
３か月予報（4～6月）の解説

令和6年3月19日発表
福岡管区気象台予報課

３か月予報のポイント

--向こう３か月の見通し--

(気温)

暖かい空気が流れ込みやすいため、

気温は高い。

(降水量)

前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、

降水量は平年並か多い。

【留意事項】

・平年より気温が高いため、**熱中症や農作物の管理等に注意。**

・梅雨前線の活動が活発になる時期もある見込み。
大雨へ早めの備えを。

3か月予報（4～6月）

	気温 低　並　高（%）	降水量 少　並　多（%）	天候
4～6月	**高い** 10：30：**60**	**平年並か多い** 20：**40**：**40**	
4月	**高い** 20：30：**50**	ほぼ平年並 30：30：**40**	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。
5月	**高い** 20：30：**50**	ほぼ平年並 30：**40**：30	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。
6月	**高い** 20：30：**50**	**平年並か多い** 20：**40**：**40**	**前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多い。**

前回（2月）発表からの変更点

4月

気温　**低　並　高%**　20:40:40　平年並か高い

降水　**少　並　多%**　30:40:30　ほぼ平年並

→

低　並　高%　20:30:50　高い

少　並　多%　30:30:40　ほぼ平年並

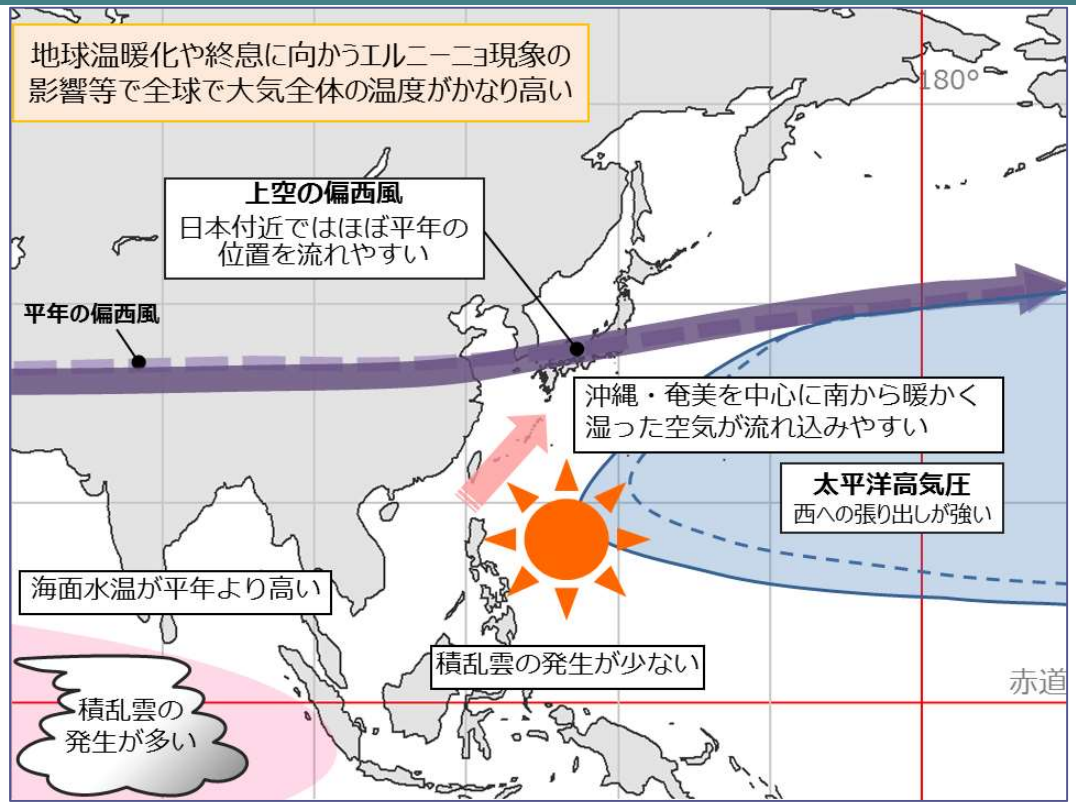
5月

気温　**低　並　高%**　20:40:40　平年並か高い

→

低　並　高%　20:30:50　高い

３か月（4～6月）の海洋と大気の特徴



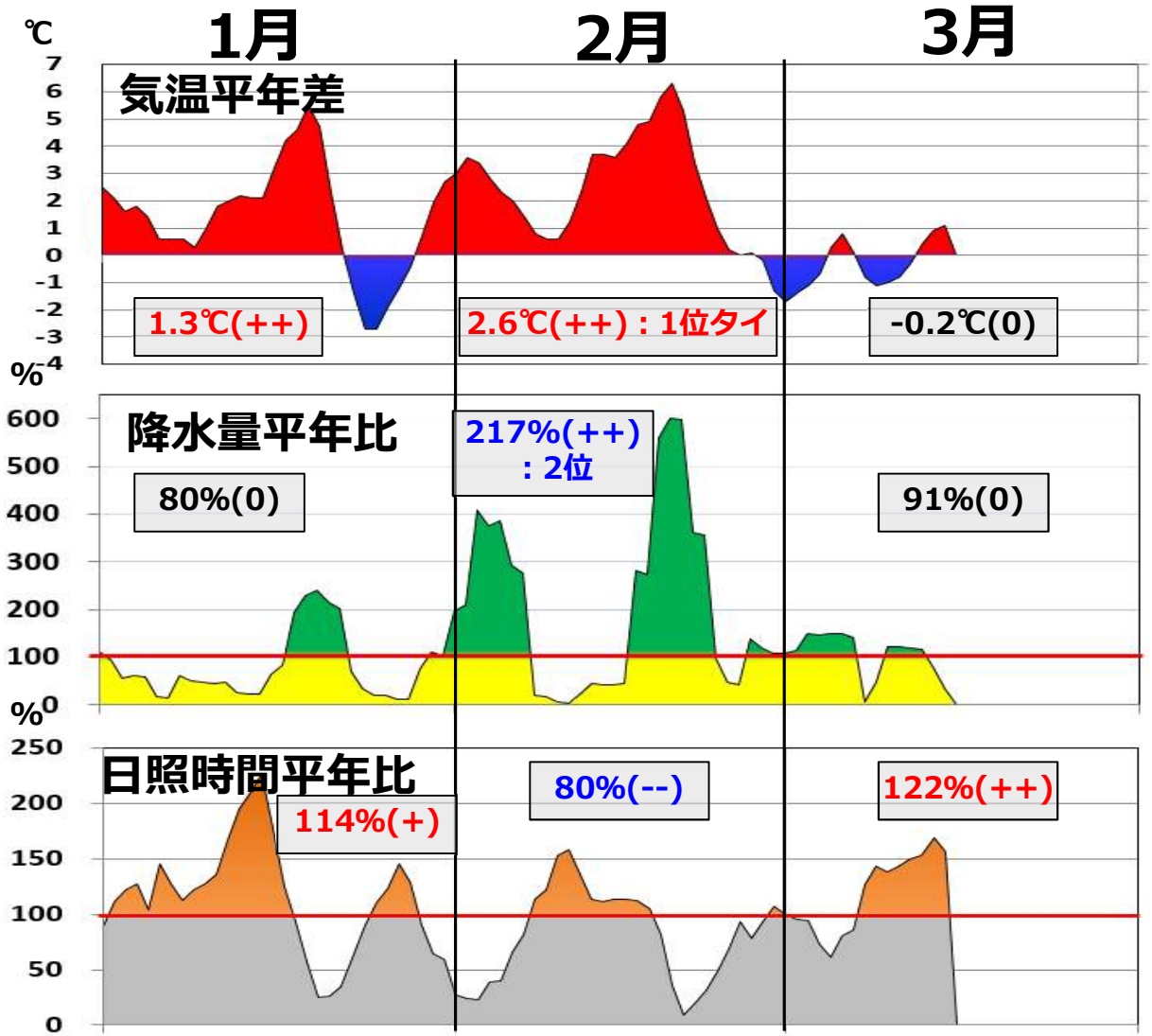
・九州付近は、南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

・梅雨前線の活動が活発になる時期がある見込み。

- 地球温暖化や終息に向かうエルニーニョ現象の影響等により大気全体の温度がかなり高い。
- 日本の南で太平洋高気圧の西への張り出しが強い。
- インド洋熱帯域で海面水温が高く、
  積乱雲の発生はインド洋熱帯域で多い一方、フィリピン付近で少ない。

・エルニーニョ現象の最盛期は過ぎつつあり、春の間にエルニーニョ現象が終息して平常の状態になる可能性が高い（80%）。

九州北部地方のこれまでの天候経過（1～3月）



3月の値は17日までの暫定値
グラフは５日移動平均値でプロット

(++)　：かなり高い/かなり多い
(+)　：高い/多い
(0)　：平年並
(-)　：低い/少ない
(--)　：かなり低い/かなり少ない

(3月1日～17日の天気概況)

●低気圧や前線および湿った空気の影響により、まとまった雨が降った日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。

●気温は、寒気の影響を受けた時期もあり、平年を下回った。

●降水量は、平年を下回り、日照時間は平年を上回った。

冬(2023年12月～2月)

気温：+1.6℃(かなりの高温)2位
1位は+1.8℃（2020年）

降水量：133%(多い)

日照時間：95%(平年並)

おわり

次回の３か月予報（5～7月）の発表日は、
4月23日（火）です

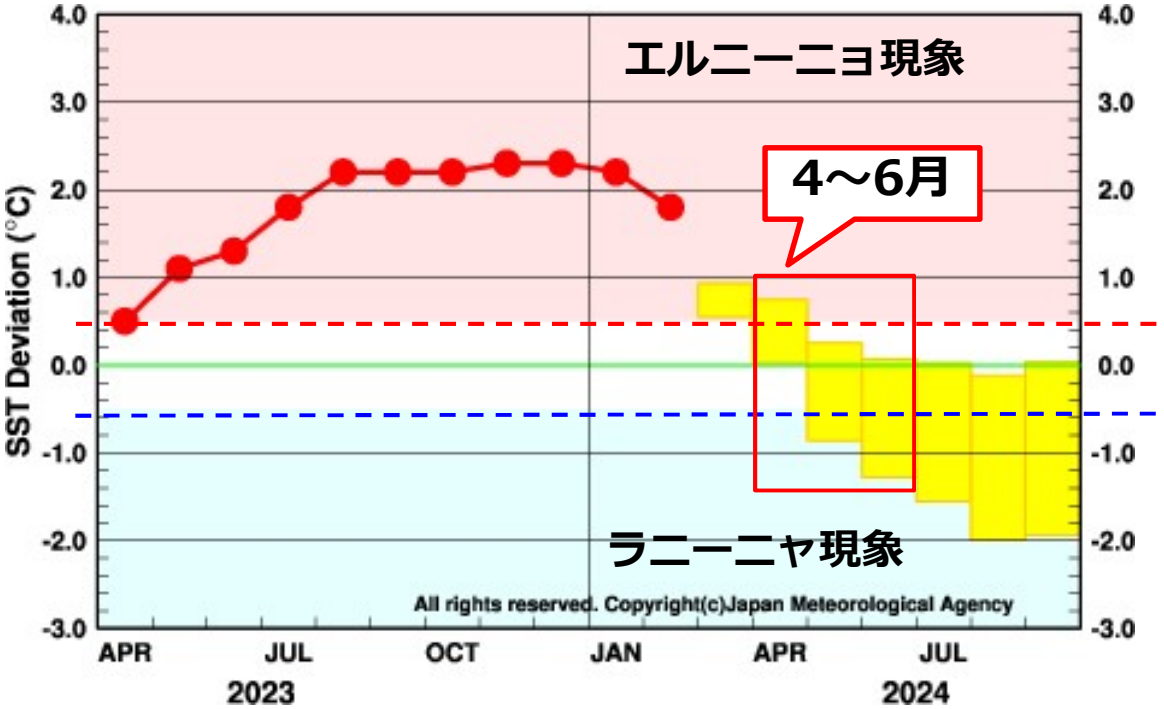
＊2022年4月から原則として毎月19～25日の間の火曜日が発表日となりました

常に最新の予報や早期天候情報、
気象情報等を利用してください

お問い合わせ先
福岡管区気象台
予報課
092-725-3604

エルニーニョ現象の実況と予測

- 昨年の春からエルニーニョ現象が続いているが、最盛期は過ぎつつある。
- 今後、春の間にエルニーニョ現象が終息して平常の状態になる可能性が高い（80%）。
- 夏の間にラニーニャ現象が発生する可能性もあるが（40%）、平常の状態が続く可能性の方がより高い（60%）。



+0.5℃ エルニーニョの基準

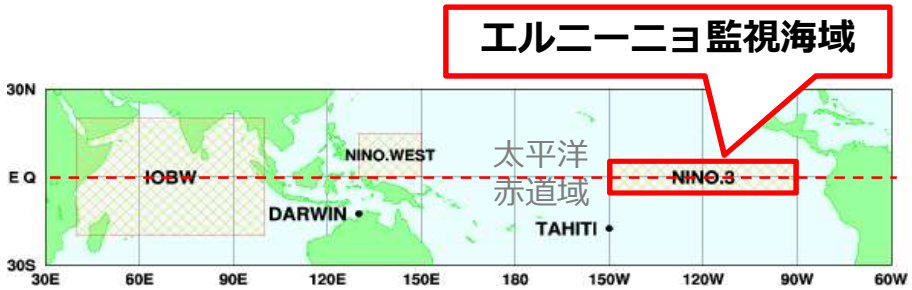
−0.5℃ ラニーニャの基準

※月平均の図

エルニーニョ監視速報（No.378）より

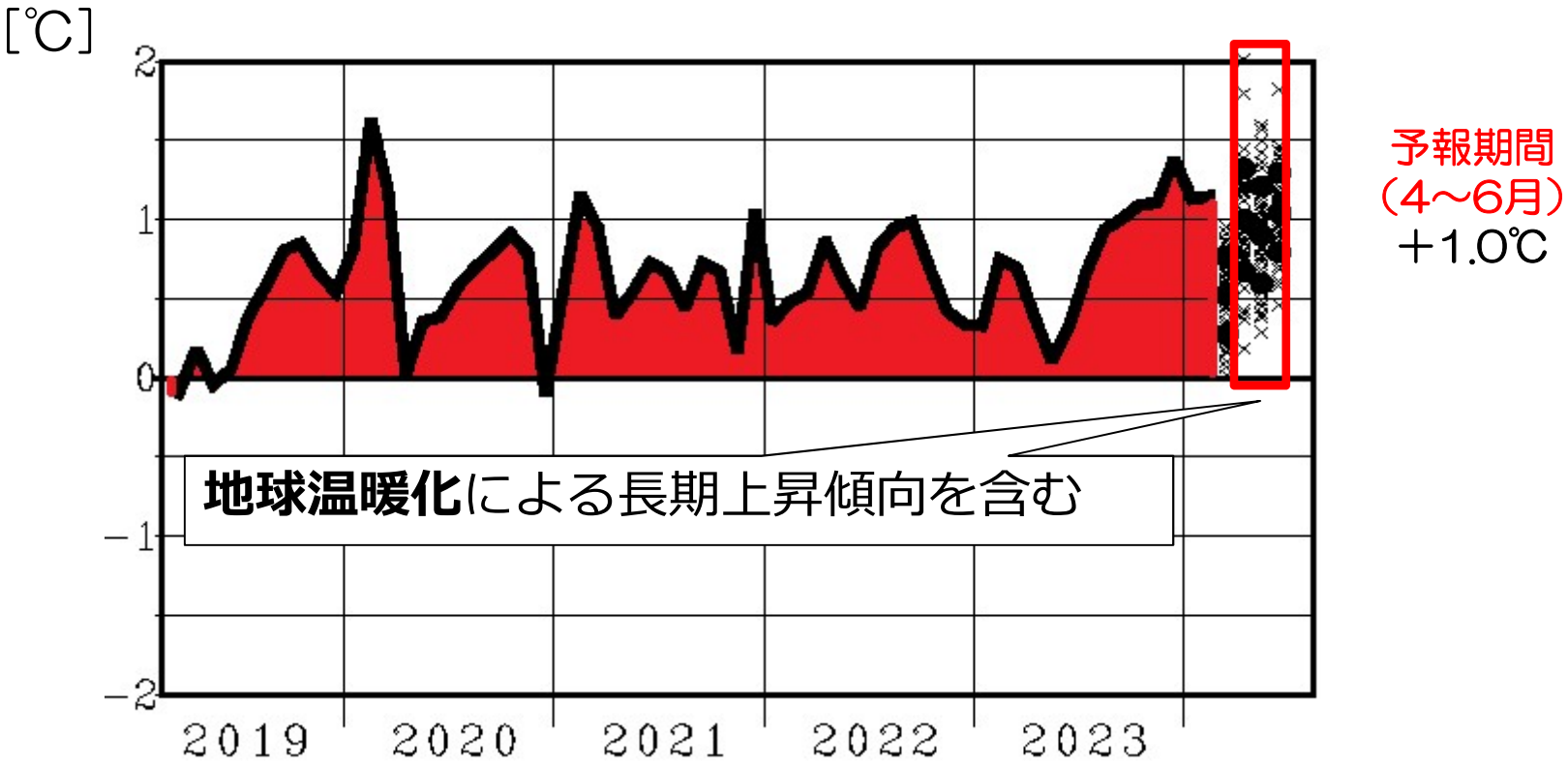
エルニーニョ／ラニーニャ現象の発生確率（予測期間：2024年1月～2024年7月）

年	月	平均期間	エルニーニョ現象	平常	ラニーニャ現象
	1月	2023年11月～2024年3月	100		
	2月	2023年12月～2024年4月	100		
	3月	2024年1月～2024年5月	100		
2024年	4月	2024年2月～2024年6月	40	60	
	5月	2024年3月～2024年7月	20	80	
	6月	2024年4月～2024年8月	10	70	20
	7月	2024年5月～2024年9月		60	40



大気全体の温度は引き続き高い状態が続く

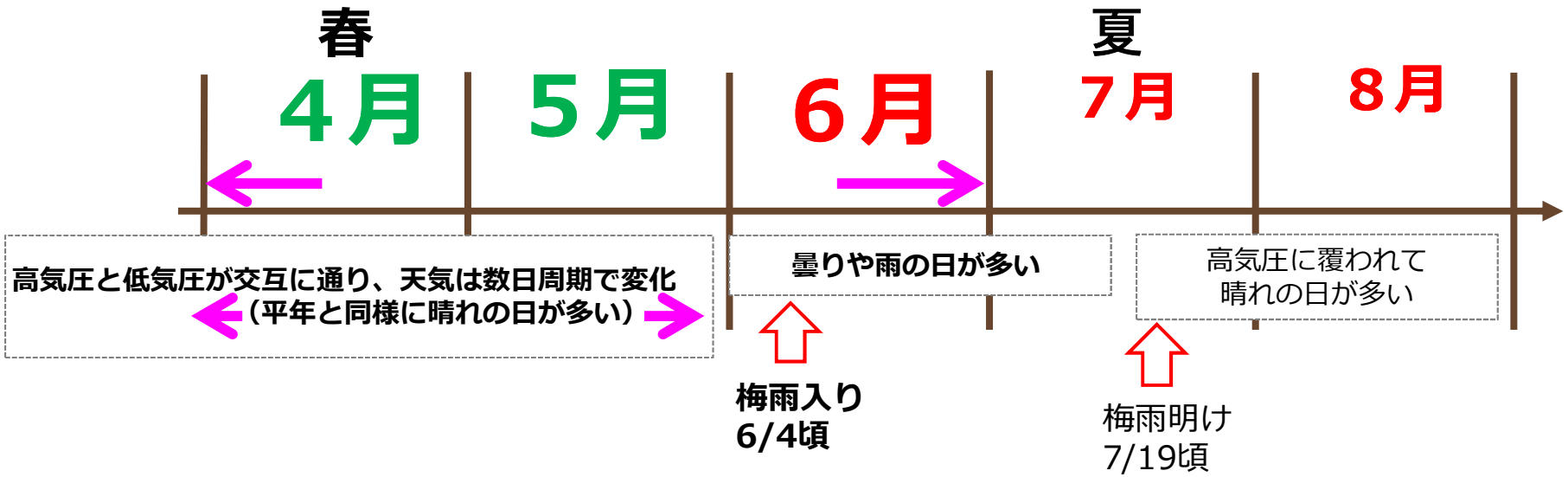
大気全体（特に北半球中緯度）の温度が平年より高い状態が継続

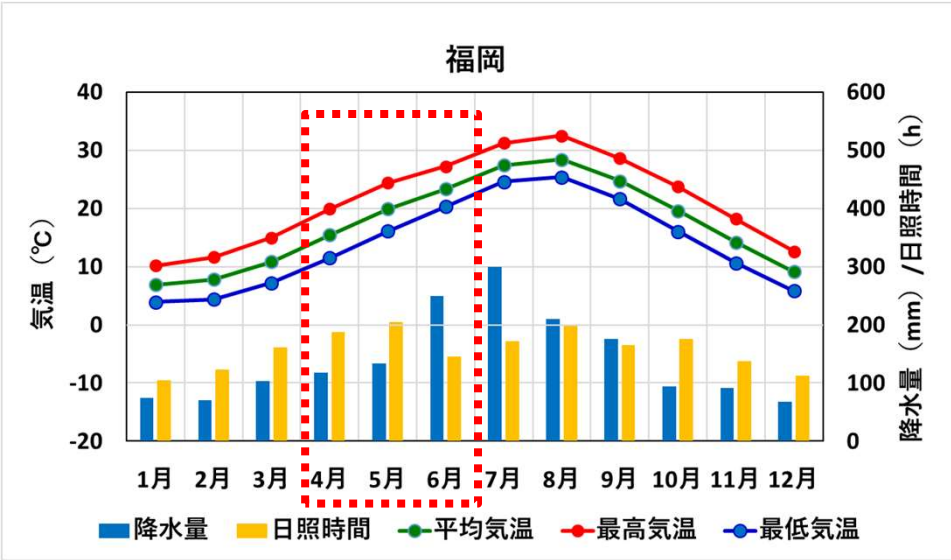


北半球中緯度（北緯30～50度）
対流圏（高さ1500～10000m）の温度の平年からの差

現在の平年値の期間　1991～2020年

九州北部地方の一般的な天候の経過





気象要素の月ごとの季節変化

季節進行とともに気温が上昇
降水量は6月に増加
日照時間は４,５月は多い時期だが6月には減少